

目
生

く

す

☆

十

三
ダ



3

ore no imouto ga
konnani kawaii
wake ga nai

フジヤシ春
Hui Fujiyashi

成年向け

星
く
ず
☆
ナ
ミ
ダ
3

3



日
生
く
あ



十
五

関係を持ち続けると決めた俺たち兄妹が
その後どうなったのか……
今回はそれを語っていきこうと思う

つっても、なにか特別なことをしたわけじゃない
全てを捨てて駆け落ち……なんてやっはり無理だしさ
親父とお袋にバレねえように関係——
って言い方はまどろっこしいな
俺たちはただ……セックスを繰り返していた
そんな折に沙織から連絡があったんだ



もう一度聴かせて
欲しいのだけれど…
あなた今なんて
言ったのかしら？



だからあ
もう別れたったの

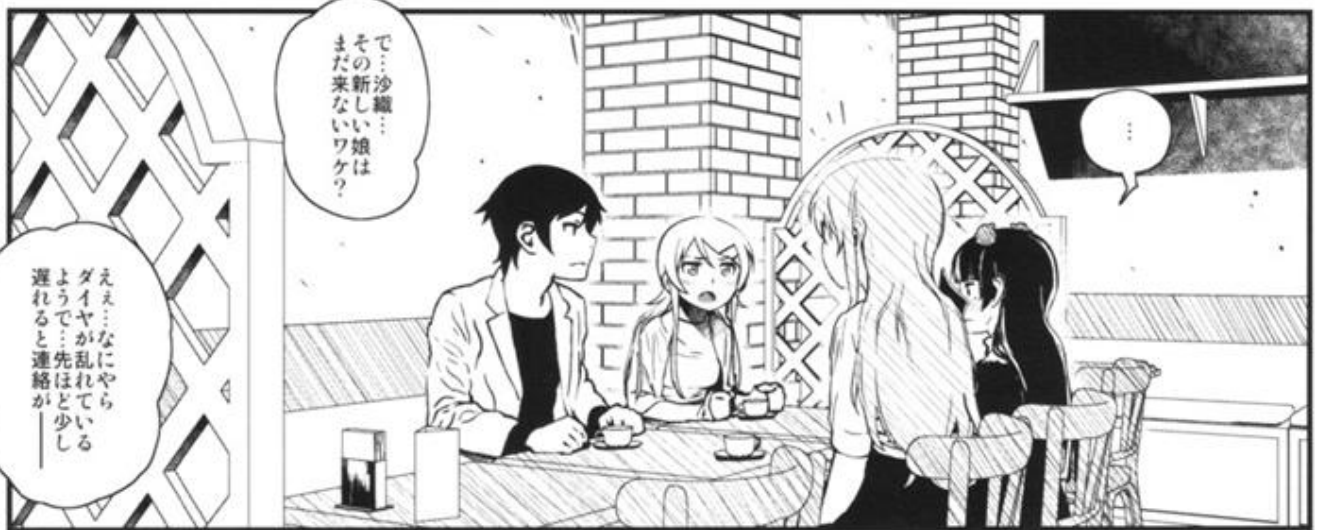
兄妹でいつまでも
こんなこと続けられ
ないでしょ

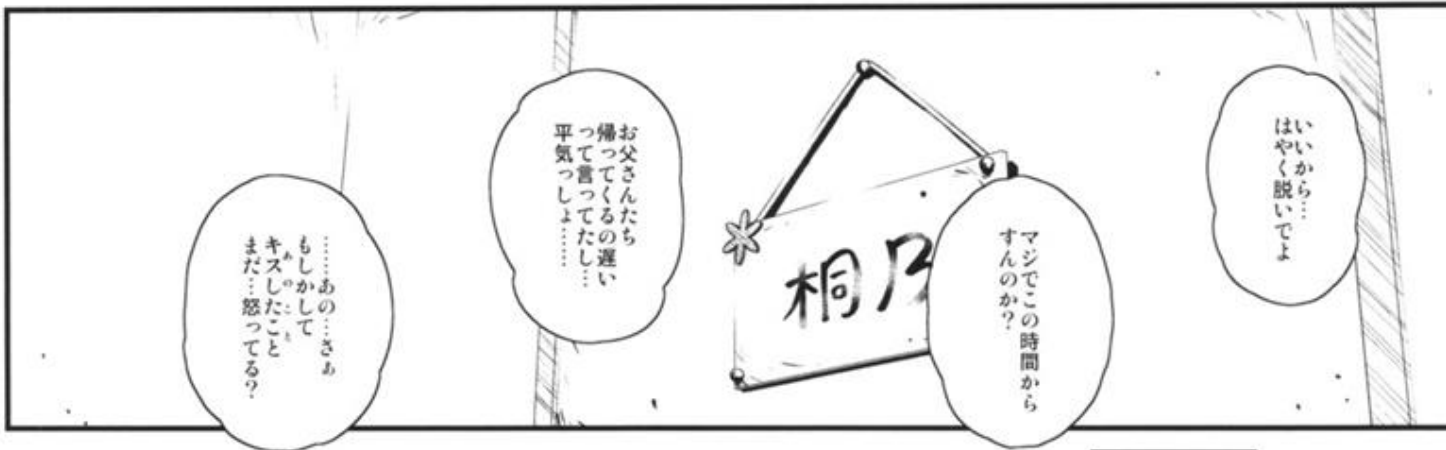


これが京介氏が
どうにかする
と言っていた答え…
ですの？

…







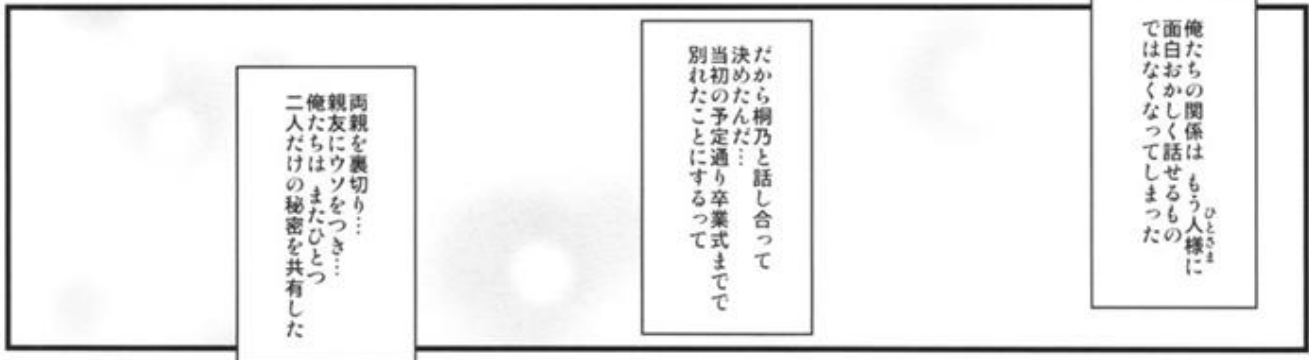
はいから…
はいやく脱いでよ

マジでこの時間から
すんのか？

桐乃

お父さんたち
帰ってくるの遅い
って言ってたし…
平気っしょ…

…あの…さあ
もしかして
キスしたこと
まだ…怒ってる？



俺たちの関係はもう人様に
面白おかしく話せるもの
ではなくなっちゃった

だから桐乃と話し合って
決めたんだ…
当初の予定通り卒業式まで
別れたことにするって

両親を裏切り…
親友にウソをつき…
俺たちはまたひとつ
二人だけの秘密を共有した



悪かったって…
もう外でイチヤつけねえ
と思っただらっつい…な

でもあいづらに
見られたわけじゃ
ないし…
問題ねえだろ？



別に…怒ってたわけ
じゃないっての…

てかあんだが
あんなことするから
あたしが…

…桐乃？



マジで無理にしないでいいんだぜ？昨日だってお前……

何でもない……
じゃあ……いい？
するよ……



んなこと言っ
めつちや手震えてる
じゃねえか……
まったく……



き……昨日のはナシ!!
とにかく……してあげる
って言っただから
あんたは……じつと
しては……ばい……の!



フエ……フエくらい……
あたしだって……

ちょっとずつ……
本当はちょっとずつだけど
桐乃はセックスに積極的にな
ってきいてた……
なろうと頑張っていたって
言っただ方が正確かな……





たぶん俺は...
苦手なことを一生懸命
頑張っている桐乃の姿に
弱いんだ

初めてオフ会に参加した
ときもそうだったな
どうしようもなく胸が
締め付けられて...

がもる

がもる

がもる



桐乃...

あのときは桐乃の
陰の努力なんか
知らなかったけど
今なら分かる

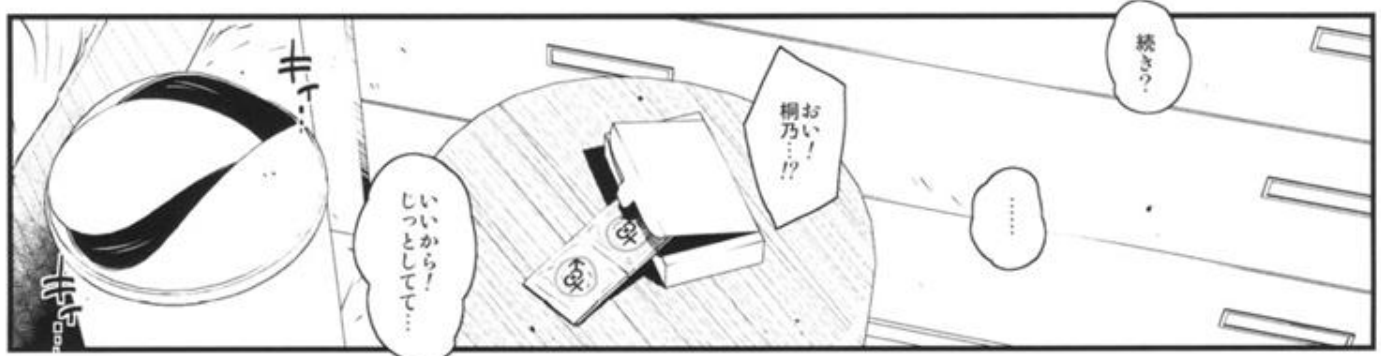
陸上...勉強...おしやれ...
すごいやつになろうと
し始めた頃の桐乃も
きつと...毎日こんな風に
頑張ってたんだらう

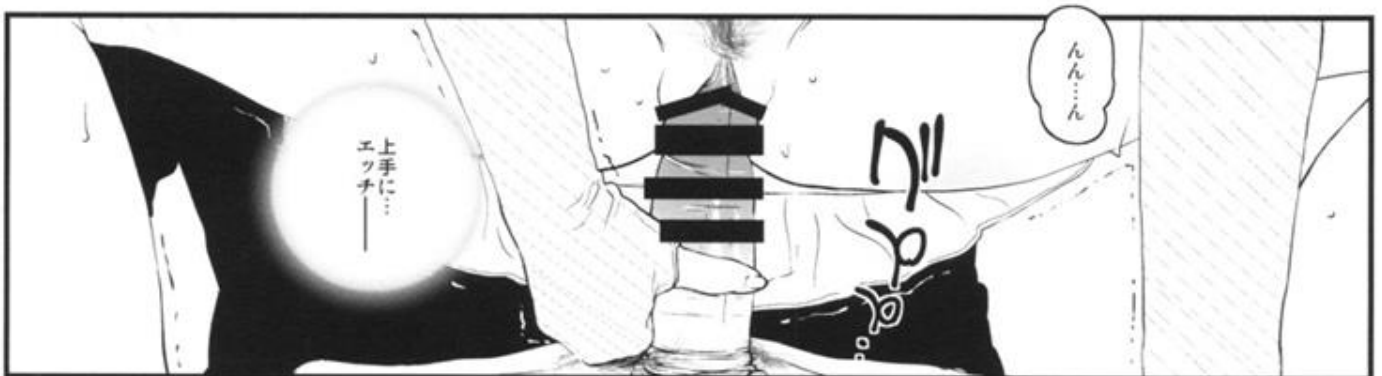
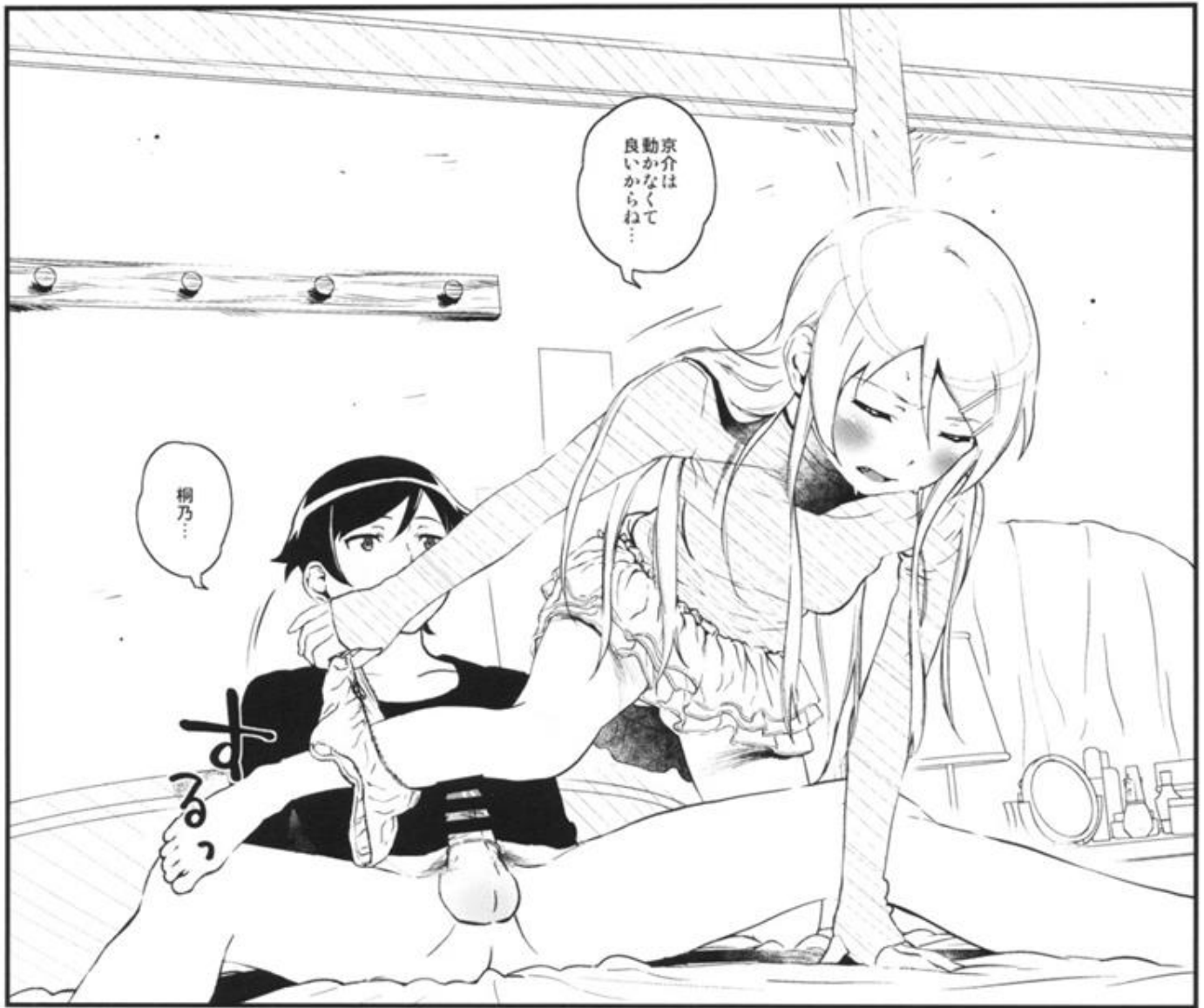


別にこのときだけが特別って
わけじゃないけどさ...
付き合っていたときも
こいつは俺のために色々して
くれていて...

がもる

ん...う









一生懸命に腰を上下させる
桐乃のうしろ姿を見ながら
頭にかかるとの会話…

は…ん

ん…

んっ…



俺もそう思っていた…
一心不乱に恋愛を
頑張ってた

あの女に恋人が
できたら…
きつと夢中に
なるのじゃないか
いつものように



んん…



もしも…もしも
そいつとエロいことを
するようになったら…



あんなナリして…
桐乃はきつと全力で
尽くすんだろう

他にパンツ見られるだけで
うろたえて…
力●ピアンコム見ただけで
泣いちゃうくせに…

恋人のためには…全力で
尽くすんだろう…って
そう…思っていた

んっ!

ん…ん!

ん…

んっ

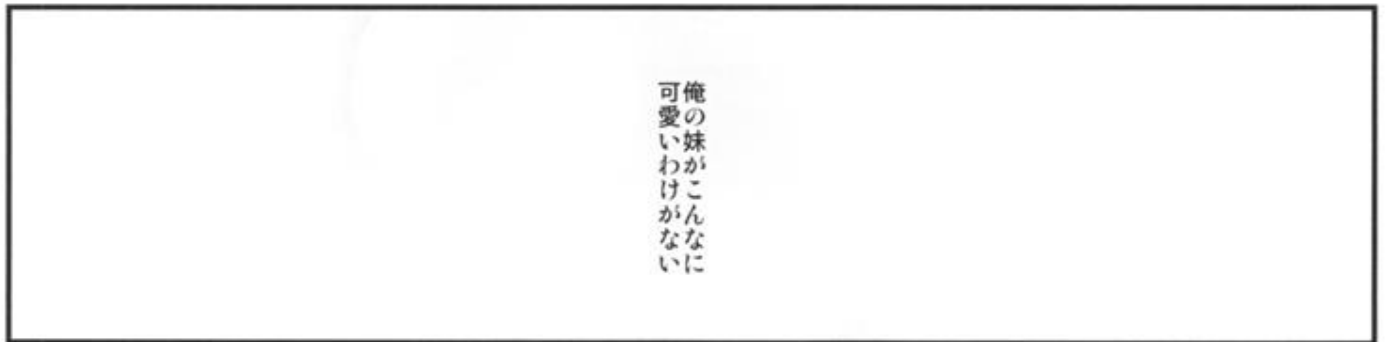


でも...
その相手は俺...
だったんだよな...



このときの光景は
俺が妄想していたもの
そのもので...
そんな桐乃の姿に
俺が思うこと...

今までも...これからも...
一番に頭に浮かぶのは
この言葉だろう





は...あ...は

あ...あ...

はは

はは

はは

はは

はは



何度も胸の中で咳いてきた
誰に向けたわけでもない
照れ隠しのひとこと……
それに今の素直な気持ちを
上乘せして――



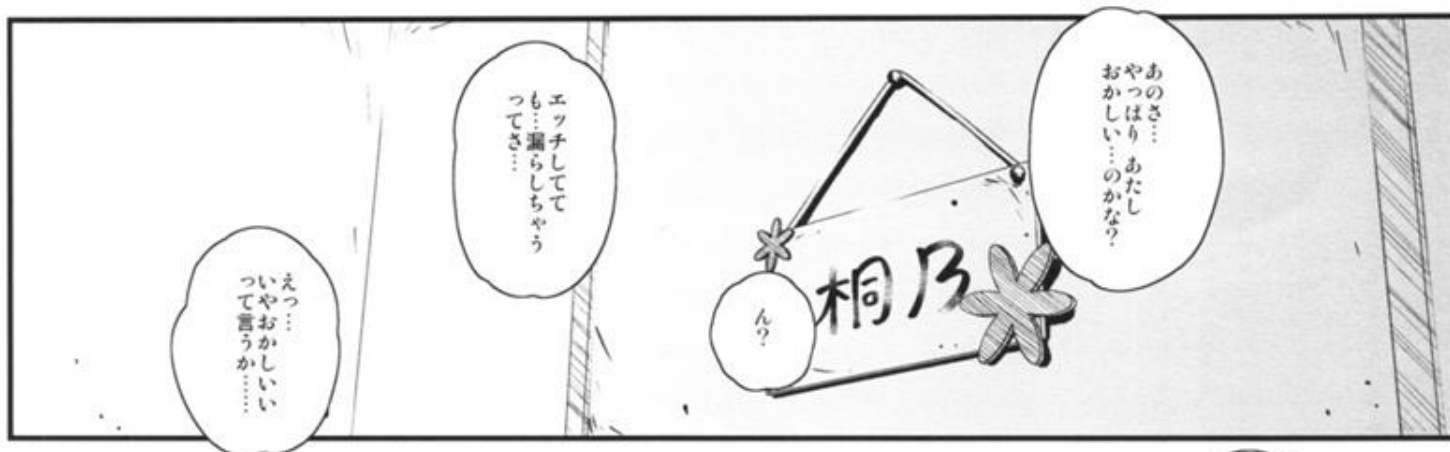
俺もちょっとは桐乃に対して
積極的になろうって決めたんだ
想ったことはそのときに
伝えておかねえとな
もう…すれ違いたくはないから…















何度も心を乱されて…
その積もり積もった感情は
俺に自覚させたんだ
桐乃への本当の想いを…

告白して…付き合つて…
終いにはセックスまで
しちゃった

「後悔してねえ」
なんて言つたけど
実際は自分の選択が間違つて
たんじゃねえかって
ずっと悩んでたんだよ…

でも…
桐乃のこの言葉が全てを
肯定してくれた…
俺は桐乃を幸せに
出来ている



俺の前では
優等生の高坂桐乃で
いる必要はないだろ？



明日は…
漏らさないように
気をつけるから…
フェ…フェラ…も…
今日よりは上手に
できると思うし—



いいよ…俺に
そんな氣に
使わなくても…
男だつてイクときゃ
出すんだし…
氣にすんな！
出ちやうもんはしょうが
ねえだろ

それにな
桐乃…
どんな気持ちいい
フェラより今のお前の
嬉しいよ…俺は



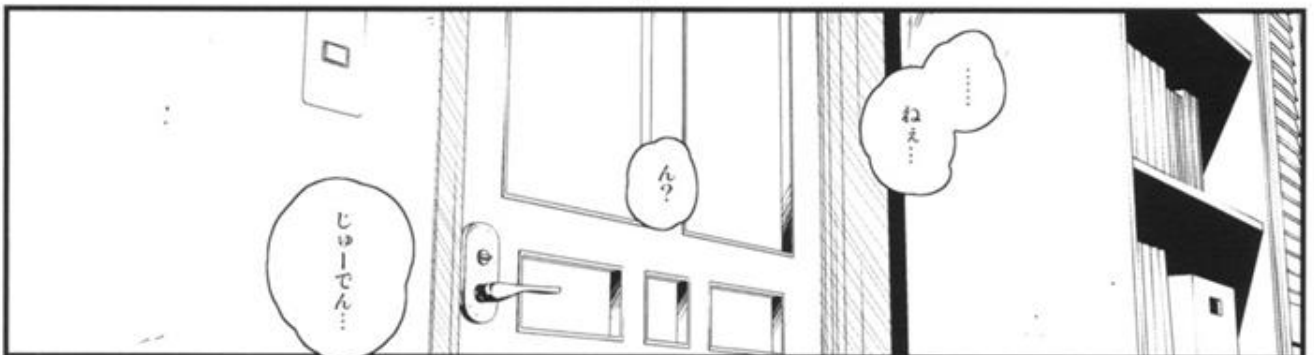
ぽん、ぽん、

桐乃？



子供扱いすんな
つつつたの！
いつも自分だけ
エッチな感みしたいな
余裕な感じ出しちゃってさ…
あんただだってあたしとしか
したことなくせにっ

なんだよ…
「エッチは男がリード
するもん」って言った
のはお前の方だろ？





あんなに変なことばっかり
言うから充電切れちゃったの
今日の分…早くして

充電

イチャつきたいとき桐乃は
こんなことを言うように
なっていた…
俺にはよく分からんが、たぶん
エロゲーの真似事だろうな

相変わらずどうして欲しいか
明確には言ってこねえけど
妹を攻略した兄貴を舐めて
もらっちゃ困るぜ？

つまり今の言葉を翻訳すると
「あんなが、あたしをドキドキ
させること言うからスイッチ
入っちゃったの！」
はやくイチャイチャさせてよ…
…まあこんなところだろう



おう…お前が
寝付くまで、ずっと
頭なでてやるぞ

それじゃ
昨日と一緒じゃん！
ちやんと考えてよ

ん…そんなじゃ…
こう…とか？

ん…
も…と…
ぎゅ…
う…

前にも言ったかもしれないが…
俺たちは付き合いつつ始めてから
普通の恋人同士がするようない
イチャイチャはできなかった



お互い一線を越えないようにって
暗黙の了解みたいなのがあったん
だろうな…
俺たちは…兄妹だから…

それなのに…
桐乃は最後の最後で自ら
それを破ってしまった…
俺も拒むことができずに結局…




明日にはこの関係がバレて
終わってしまうかもしれない
兄妹として一緒にいることすら
できなくなるかもしれない
そんなとこまで来ちゃった

でも俺たちはここまで来て
ようやく少し…素直になれたんだ
今まで出来なかつた甘い
イチヤイチヤを出来るくらいには…



イチヤイチヤの詳細については
皆の想像に任せる…
一部始終 全てを晒したら
俺と桐乃は恥ずかしすぎて
死ぬるからな…

ただ語り部として
ほんの少しのやり取りは
教えてやろう



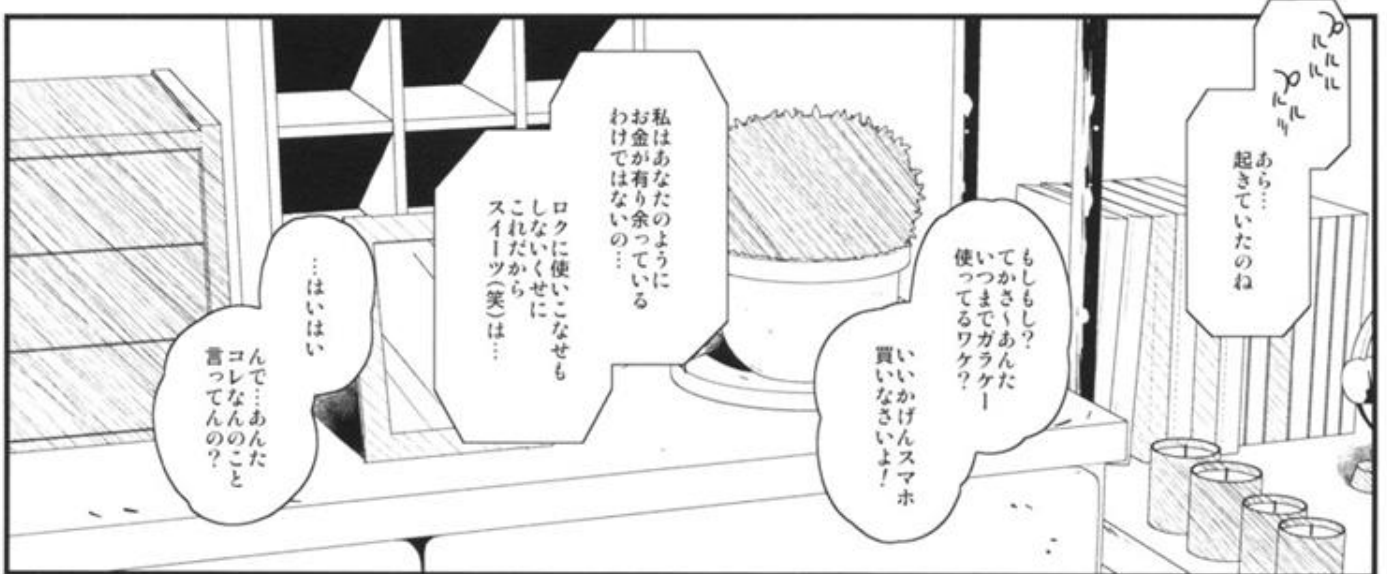
会話が途切れ…微かな寝息を
立てはじめた桐乃
「桐乃…寝ちゃった…う」
そう問いかけ
ベッドを離れようとした俺に
桐乃はこう返してきた

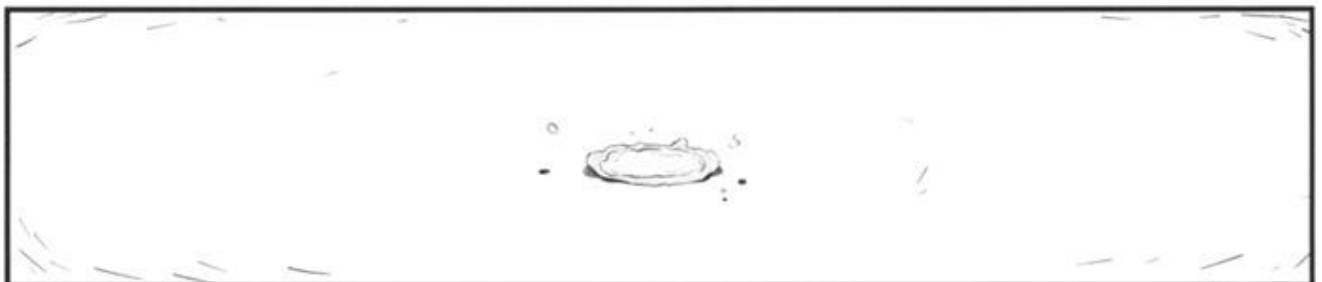
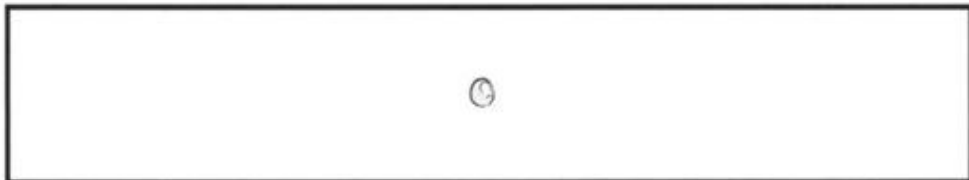
「ねえ…京介…
夢の中でも一緒に
居てくれる…？」

それを聞いた俺がなにを想い…
なんて応えたかは…
もう言うまでもないことだろう…









星くず☆ナミダ③

発行日:2014.4.29

発行:†NIL†

発行者:フジバヤシ春

印刷所:ねこのしっぽ

MAIL>>> hal.0.fujibayashi@gmail.com

ore no imouto ga
konnani kawaii
wake ga nai
nijisousaku
doujinshi
hoshikuzu namida

